

奨励賞

所在地：北海道常呂郡佐呂間町
病床数：19床
従業員数：33人（うち看護職員数11人）
入院基本料看護配置：有床診療所入院基本料1
有床診療所療養病床入院基本料

医療法人恵尚会 佐呂間町立診療所 クリニックさろま へき地におけるICTを活用した多職種連携

取組の きっかけ

- 当施設はへき地の診療所であり、患者は入院・外来共に町内居住者である。一方、看護師等の職員は町内居住者が全体の3分の1程度しかおらず、募集してもなかなか集まらず応援ナースを活用するなど看護師等の人材不足が深刻であった
- 入院患者の平均年齢は89.3歳と後期高齢者が多く、地域全体としてリハビリの需要が高い。しかし佐呂間町内に理学療法士は不在で、診療所内の看護師はリハビリの必要性・需要に応えるためにも多職種連携・リハビリの充実に課題を感じていた

主な 取組内容

➤ 当施設では、恵尚会理事の働きかけにより町外の理学療法士との連携体制が整い、以下①②の取組を行っている

① 理学療法士によるリハビリに関する勉強会の開催

- 年2回、理学療法士による人体や関節・筋肉に関する勉強会を実施している。地域全体で患者の情報共有ができるために、診療所職員だけでなく、地域ケア会議の参加者（介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護事業所、地域包括支援センター、ケアマネジャー等）にも参加を募り、全体の半数程度参加があった
- 勉強会後は、理学療法士が作成した人体や関節・筋肉に関するミニテストを職員に実施し、勉強会の理解度をチェックした

② リハビリ計画の立案・実施・評価

【計画立案】

- 看護師が入院時にチェックシートを用いて患者のセルフケア自立度等を評価し、リハビリ計画を含む看護計画を立案する

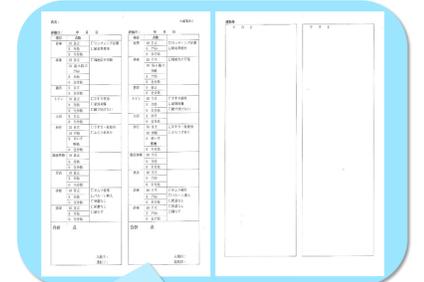
【リハビリ実施】

- 立案したプログラムに沿い、筋力低下防止運動や拘縮予防運動等を看護師等が毎日実施
また、週1回各関節の可動域を測定し、結果をカルテに記載

【多職種による評価】

- 「月1回定例で行うネット回線を使用したビデオ通話会議」または「理学療法士が診療所に訪問した際が多職種によるベッドサイドカンファレンス（2～3か月に1回）」により、多職種で患者の状態の評価、患者の個別性に合わせた計画・目標の追加及び修正、リハビリ運動の実施方法を共有する

<入退院時のチェックシート>



チェックシート表面は、Barthel Indexの尺度を使用。裏面は、患者個々の運動機能について、フリースペースで自由に記入できるようにしている

<月1回定例で行うネット回線を使用したビデオ通話会議>



- クリニックさろま、札幌在住の理学療法士、恵尚会本部（宮城県）をネット回線でつなぐ

<ベッドサイドでのリハビリ指導>



- 退院後をイメージし、理学療法士が患者の状況に応じたリハビリプログラムを考案し看護師等と共有
- ベッドサイドで理学療法士が行うリハビリに看護師等が立ち会う

患者に応じたプログラムとは・・・現状維持の方、自力でのトイレ排泄希望等の目標がある方、家族の希望がある方などの、複合的な観点からプログラムを考案する

取組の 成果と効果

- 筋力低下防止運動のプログラムを開始後に介入した患者4名のうち3名は、**退院後も入院前と同じセルフケアを維持**でき、うち1名は、入院時より筋力がアップした
- 理学療法士が行う勉強会に地域ケア会議関係者が参加することで、患者を取り巻く施設間での情報共有が進み**切れ目ないケア、また生活状況を落とすことなく、その人らしい生活を送れるようにと考える風土が醸成できた**



ビデオ通話による定例会議

- 今までは、理学療法士が診療所にいないことで、患者の拘縮に対するケアに自信が持てず、積極的に関われなかった。しかし、理学療法士と協働することで、自信をもってケアできるようになった



診療所外観